

ART KISS LETTER

熊本市現代美術館 アート・キッスレター

2017 夏
vol.82



三沢厚彦さんと寺田農さん

動物たちが生み出す劇場空間―三沢厚彦 ANIMALS in 熊本

巻頭言

このところ動物をテーマにした展覧会が国際的にもブームの様相を呈し、欧米の主要都市でいくつもの展覧会が開催されています。ロンドンのマリアン・グッドマン画廊では「アニマリテイ」と題したグループ展が、ウエルカム・コレクション・ミュージアムでは「私たちはいかに動物を見るか」展が開催され、現代美術の拠点ホワイト・チャペル・ギャラリーでは「アニマルズ…現代美術の記録」と題した論文集が出版され、注目されました。そしてパリのエッフェル塔を疾駆する馬やニューヨークの巨大広告塔に貼り出された雪原のシマウマの写真等で衝撃を与えたイタリア出身のパオラ・ピヴィが、ますます旺盛な活動を行っています。

こんな状況の中で、三沢厚彦の彫刻シリーズ「アニマルズ」は、破格の重量感、存在感、そしてインパクトをもちながら、現代彫刻ではめずらしく、子供から高齢者までの心を即座に捉えるユーモアといとおしさを備え、強力な独自性を放っています。その素材は、日本の仏像彫刻の原点でもある樟（クスノキ）であり、現在開催中の「三沢厚彦 ANIMALS in 熊本」展会場は、その樹木の芳香が漂っています。樹齢千年を超える樟がこの熊本には何本もあり、古来、豊穣と生命力の象徴ともなってきました。この樹木が県木ともなっている熊本で、この三沢展が開催されているのです。

今回の展覧会は、初期のものを含めて三沢作品のかなりが集まる大規模展となり、今にも動き出しそうな大小さまざまな動物たちが集合する展示室は、宇宙を形成し、様々な物語が生み出されようとする劇場空間を思わせます。この熊本のアニマルズ展は、古代ギリシャの哲学者の言葉「宇宙全体にはひとつの命があり、それが人も神も動物も満ち、したがって私たちはみなつながっているのだ」（セクストス）を思い起こさせます。

熊本市現代美術館館長 桜井武

Contemporary Art Museum, Kumamoto

2017.6.24[土]—9.3[日]

三沢厚彦 ANIMALS in 熊本

CAMK
www.camk.or.jp

MUSEUM INFORMATION

2017APR-JUN

高橋コレクションの宇宙

2017.4.23

CAMKレクチャーカレッジ

「高橋コレクション概論」

「高橋コレクションの宇宙」展の関連イベントとして、高橋コレクションの概要を紹介するCAMKレクチャーカレッジを開催しました。展覧会では34作家による多様な作品の数々を展示しましたが、レクチャーでは「高橋コレクションとはそもそもどういうものなのか?」「2500



点を超えるコレクションはどのような点に形成されたのか?」「高橋氏とはどのような人物なのか?」といった高橋コレクションの背景について、高橋龍太郎氏という人物を軸にご紹介しました。また、「ネオテニ」「マインドフルネス」「ミラーニューロン」といった高橋コレクションのキーワードについても、高橋氏がどのようにその言葉を用いて自身のコレクションや日本の現代美術について考えているかをお話しました。(M・I)

【参加人数51人】

2017.4.29

ワークショップ

「現代美術は怖くない!」

くじびき制作で誰でもアーティスト

「高橋コレクションの宇宙」展出品作家の青山悟さんによる、「現代美術



は怖くない!くじびき制作で誰でもアーティスト」ワークショップを当館ホー

ムギャラリーで開催しました。このワークショップは、多摩美術大学の1年生の授業でも行われているもので、難しいと思われるがちな現代美術の多様な表現方法を、説明からではなく、身体で体験して理解してみようという内容です。

始めにスライドで現代美術の歴史に大きな影響を与えたピカソやデュシャンなどの有名な作品を見てから、絵画や彫刻といったジャンルの豊かさが紹介され、その後、お題となるくじが引かれました。くじの内容は「油



絵を描きましょう。ただし筆は使えません。」「自分の身体が作品です!」

どうすれば作品になるのかな?」など。参加者の皆さんは謎かけのような内容に戸惑いながらも、お互いのくじについて話し合ってみたり「高橋コレクションの宇宙」展の作品を参考にしたりしつつ、集められた多種多様な素材を組み合わせて制作が始まりました。2時間ほど黙々と作業を続けると、仕掛けがいっぱいの立体作品や、立体と見紛うほど画面から飛び出した絵画作品など、見たこともないような楽しくてバリエーション豊かな作品群が完成しました。その後、元となったくじの内容を読み上げながら、鑑賞会が行われました。

最後に、導入で紹介された一見難解な作品について、作者がどう考えてその作品を作ったかを青山さんが説明。自分や他の人の作品について色々なことを考えながらワークショップを体験した後は、皆さん作品を受け入れやすくなったようでした。(K・O)

【参加人数16人】

2017.5.13

プレママ・ファミリーツアー

今回のツアーは5組の家族にご参加いただきました。絵画、彫刻、写真、インスタレーションと、ケーキ箱ほどの小さな作品から、2階建ての家くらいの大きな作品まで、様々な作品を楽しみました。中をのぞいて鑑賞する草間彌生や東芋の作品では、子どもはもちろん大人も興味津々の待ちきれない様子で観賞していました。マカロニやビーズや布といった日用品を使った作品など、現代美術ならではの多様な表現方法を発見できるツアーとなりました。(A・M)

【参加人数14人】



2017.6.24-9.3

「三沢厚彦 ANIMALS in 熊本」開幕



6月24日より「三沢厚彦 ANIMALS in 熊本」展が開幕し、同日、開会式・記者発表が行われました。本展では、三沢厚彦さんの初期作品から、絵画作品、彫刻の「アニマルズ」シリーズまで計103点をご紹介します。愛嬌たっぷりでありながら、圧倒的な存在感を放つ動物たちとの出会いに、来場者の皆さんも驚いた様子。展示会場のみならず、美術館のフリースペースにも作品を展示していますので、どうぞ楽しみながら探してみてください。(A・M)

アーティスト・トーク

2017.6.24

三沢厚彦(彫刻家)×寺田農(俳優)

「三沢厚彦 ANIMALS in 熊本」開幕初日、関連イベントとして三沢さんと俳優の寺田農さんによるアーティスト・トークを開催しました。

お父様が画家ということもあり、芸術にも造詣の深い寺田さん。軽や



かな語り口で、さまざまな話題でトークが繰り広げられました。お二人の出会いに始まり、展示予定の作品が大きすぎて会場に入らなかった！といった今までの展覧会でのエピソードが紹介されると、会場が笑いに包まれます。展示空間づくりの話題が展開すると、美術と芝居の共通点が見えてきました。それは日常と非日常をつなげ、「これから始まる」とワクワクさせるための仕掛けがあるということ。三沢さんが導入として展覧会場の外に作品を置くことは、芝居で言う上演前に音楽をかけることに似た効果があるとのこと。また、リアルを超えるリアリティが存在するということも、お二人が頷く点でした。三沢さんは、現代美術では稀な等身大の動物をモチーフとして、「人間がどう見ているか」を表現するため、具象になり過ぎないかたちを生み出します。しかし、「本物の動物より動物らしい」と作品をほめられることがあるとのこと。寺田さんも、

「お酒が飲めない人の方が、酔っ払いの演技がうまい」という例を挙げて納得していました。幼少期の話題から制作の奥深い話にまで及び、会場に駆け付けた多くのお客様も、終始聴き入っていました。(A・M)

【参加人数110人】

熊本城×特撮美術「天守再現プロジェクト」

2017.5.6

「特撮雲」製作・撮影ワークショップ

特撮美術監督の三池敏夫さんを講師に招き、「特撮雲」製作・撮影ワークショップを開催しました。このワークショップは、今年の冬に開催される「熊本城×特撮美術 天守再現プロジェクト」展のプレイベントとして行われ、会場は子どもから大人ま



で、多くの参加者で賑わいました。参加者は、大きな綿をちぎって一握りほどの大きさに成形しヘアムースで固めて、大量の雲を制作しました。撮影に不可欠な背景(空)は、熊本県立第二高等学校美術科の生徒たちが担当。三池さんの指導のもと青い下地のパネルにチョークで雲を描いていきました。1時間半ほどで各テーブルの雲と背景が完成し、仕上げて背景の空と雲海をつなぐ筋状の雲が作られると、大きな雲海のミニチュアが出現。照明や機材をセットし、小さな飛行機の模型を綿雲の上に吊ると、スクリーンには雲海の上に浮かぶ飛行機の映像が現れました。カメラを台車に乗せて滑るようにゆっくりスライドさせると、まるで空中から飛行する機体を撮影しているかのような映像が映し出され

ました。参加者の皆さんは、驚きながらしげしげと映像と実物を見比べていました。光源となる照明が色セロファンで覆われると、雲は一気に夕焼けの光に包まれ、光源の色を変えるだけで、朝日や夕暮れを表現する技術に、会場からは「おぉー！」と歓声が上がっていました。(K・O)

【参加人数20人】

(主催…くまもと21の会、共催…熊本市現代美術館)

2017.5.7

特撮美術監督

三池敏夫講演会

前日のワークショップに続き、三池敏夫さんによる講演会が行われました。国外も含めた世界全体の特撮技術発展の歴史をダイジェストで紹介いただいたほか、三池さんによるこれまでの仕事や、近作の撮影現場の状況についてもお話いただきました。豊富な映像資料を見ながらの盛りだくさんのお話に、会場に詰めかけた皆さんも大満足の様子でした。(G・S) 【参加人数140人】(主催…くまもと21の会、共催…熊本市現代美術館)



街なか子育てひろば

2017.5.18

5月ワークショップ

「親子で音楽あそび」

今回は出張音楽活動を行っているWAIWAIランドの先生お二人を招き、音楽に合わせて体を動かすワークショップを開催しました。

最初は緊張していたのか、表情も硬かった子どもたちですが、先生の弾くピアノに合わせて「世界中のこどもたちが」や「むすんでひらいて」を歌い始めると少しずつ笑顔に。その場で歌って踊るだけではなく、飛行機になりきって室内をぐるぐる飛び回るなど、自分の体と会場をのびのびと使う遊びをたくさん行いました。

フラフープを使った遊びには、子どもたちも大興奮！くるくると回し



てみたり、電車になりきってみたり、輪を潜り抜けたりと、会場内は楽しそうな笑い声で満たされました。(K・M)

【参加人数32人】

2017.6.23

6月ワークショップ

「リフレッシュ親子ヨガ」

今回のワークショップでは、ヨガ講師の原田理恵先生に親子で楽しめるヨガのポーズを教えていただきました。呼吸とともに体をねじったり伸ばしたりするヨガは、日常生活のちよつとしたスキマ時間に取り入れることができ、いつも忙しいお母さんの気分転換にもぴったり。親子で触れ合いながらポーズを取ることで、赤ちゃんもとても楽しそうです。会場は終始、みなさんの楽しげな声にあふれていました。静かに自分の体と向き合うことの多いヨガですが、親子でコミュニケーションを取りながら笑顔で行うことによって、より効果がアップしそうですね！(K・M)

【参加人数20人】



アートバス・アウトリーチ

2017.5.27

CAMKアートプログラム

「フリーカップをつくろう」

就労移行支援事業所「アス・トライ」の通所者の皆さんを対象に、陶芸家の田口和代先生のワークショップを行いました。「玉づくり」と「紐づくり」を組み合わせた方法で、フリーカップを作っていきます。取っ手をつけて、マグカップやスプーンカップを作し、スタンプで型押しなども行いました。焼き上がりが楽しみな出来栄となりました！(A・S)

【参加人数8人】



ミュージック・ウェーブ

2017.6.11

熊本地震復活コンサート

袴田和泉と仲間たち…
三戸素子、小澤洋介

「熊本地震復活コンサート 袴田和泉と仲間たち」は、たいへん多くのお客さまで賑わいました。出演者は袴田和泉(ピアノ)、三戸素子(ヴァイオリン)、小澤洋介(チェロ)の3名。演奏曲はチャイコフスキーの大作、ピアノ三重奏曲「短調Op.50」「偉大な芸術家の思い出」「偉大な芸術家」とはロシア随一のピアニスト



であるニコライ・ルビンシュタインのことで、本作は友人であった彼の死を悼んで作曲されたそうです。熱烈、軽快、静謐、など様々に印象の変わるメロディーで、無二の親友を失ったチャイコフスキーの感情の起伏を鮮やかに表現していました。楽章の間には演奏者の袴田さん自らMCをされ、主要なフレーズを実際に弾いてみせながら解説を加えました。軽やかな語り口で、聞き手を楽曲の世界にあたたかく迎え入れます。後半もドラマチックに変化していく迫力のある演奏に、来場者はすっかり引きこまれていました。(A・M)

【参加人数130人】

(主催…くまもと音楽復興支援100人委員会、共催…熊本市現代美術館)

2017.3.23-4.16

「熊本地震被災地からの声」パネル展



アートスカイギャラリー前のスペースで、NHK熊本放送局「熊本地震 被災地からの声」のパネル展示を行いました。NHKでは、熊本地震で被災した各地を巡って集めた被災者たちの「声」を、これまでに200人以上紹介してこられました。今回は、その中でも特に反響の大きかった30点をピックアップして展示しました。直筆でスケッチブックに書かれた「声」とは、被災された方々が「今、一番訴えたいこと」。

中でも、スケッチブックに大きく書かれた「この学校で卒業式をしたい」という小学生の字には、当たり前だと思われていたことのかげがえのなさに気づかされ、胸に迫るものがありました。(K・O)

(主催：NHK熊本放送局、共催：熊本市現代美術館)

2017.4.19-4.23

my home town わたしのマチオモイ帖 熊本・大分展

日本全国のクリエイターたちが「大事なマチ」を想い、冊子や映像、ポストカードにまとめた「マチオモイ帖」の展示を、ギャラリーⅢの「東北熊本展」に連動する形で、アートスカイギャラリーで行いました。

熊本地震でも活用されたPPS4(紙管による間仕切り)をリユースしたテーブルに、日本各地の「マチオモイ帖」が置かれ、多くの方が手に取って眺めていました。(A・S)

(主催：熊本・大分マチオモイ実行委員会、共催：わたしのマチオモイ帖制作委員会、熊本市現代美術館)



2017.6.16-

熊本城天守閣 木軸模型展示

熊本城天守閣の修復工事にともない、天守閣内に設置されていた1/10サイズの熊本城天守閣の木軸模型が熊本市現代美術館に移設され、2017年6月16日(金)より展示されています。

1960年の天守閣再建時に制作されたこの構造模型、実際の天守閣の工事完了まで、当館のフリースペースで公開していますので、多くの皆さんにご覧いただければ幸いです。(G・S)



月曜ロードショー上映報告

毎週月曜日14時・17時より 無料
上映リスト(4/10より6/19)

- 4月10日『フェリーニのアマルコルド』1973年 イタリア映画 119分
- 4月17日『男と女』1966年 フランス映画 104分
- 4月24日『血と砂』1922年 アメリカ映画 60分
- 5月1日『桜桃の味』1997年 イラン映画 98分
- 5月8日『ホームワーク』1989年 イラン映画 86分
- 5月15日『りんご』1998年 イラン映画 86分
- 5月22日『少年、機関車に乗る』1991年 タジキスタン映画 100分
- 5月29日『卵の番人』1995年 ノルウェー映画 86分
- 6月5日『オルフェ』1950年 フランス映画 95分
- 6月12日『幸せになるための恋のレシビ』2007年 フランス映画 93分
- 6月19日『孤独な惑星』2011年 日本映画 94分

詩の朗読会

2017.4.27 第159回「すてら・ひろう」【参加人数8人】

2017.5.25 第160回「宇宙」【参加人数7人】

2017.6.22 第161回「動物」【参加人数9人】



当館ボランティアによる子ども向け読みがたり

CAMK読みがたり

2017.5.20 第92回「ありがとう」【参加人数13人】

2017.6.17 第93回「夏がくる」【参加人数26人】



アンケートに寄せられた感想(抜粋)を紹介します

Visitor's letter

高橋コレクションの宇宙

- 坂本夏子さんの作品が圧巻でした！(市内20代女性)
- セクション、並び順、空間の使い方、すべて今まで行った美術館で一番好きでした。(市外女性)
- 何かとても新しいものに触れた感じがします。(市内70代女性)
- 現代アートはちょっと苦手でしたが、最近は面白いです。見たかった作品がたくさんあり、驚きましたし、うれしかったです。たくさんの方に実物を見てほしいです。(県外60代女性)

G III vol.116 熊本市被災文化財のいま

- 気になるお城の復旧の様子が見られて良かった。回復途中の様子も見せてほしい。お城がどうなっているか。どう回復していくか、今後も知りたい。(市内50代女性)
- 文化財レスキューの大切さを強く感じる。「文化財」の何が遺るかについては、様々な事情もあるのだろう。助け出された資料のこれからも心配です。(市内40代男性)

三沢厚彦 ANIMALS in 熊本

- 生命力あふれる作品群を間近で見ることができ、圧倒されました。とても楽しかったです。(市外20代女性)
- たくさんのシュールな顔の動物が何を考えているのか考えるのが楽しかったです。(市内20代女性)

大ヒット中の連載漫画、『進撃の巨人』。最近では漫画だけでなくとどまらず、アニメ化、実写映画化、ゲーム化、テーマパークのアトラクション化、さらには美術館でのオブジェ展示など、『進撃の巨人ブーム』は様々なところで広がりを見せています。この

漫画にはその名の通り数多くの巨人たちが登場します。その姿は多種多様ですが、本書では、その中でも「筋肉の体」をした巨人に注目し、「美術解剖学」の視点から、漫画のイラストを用いつつ、作品の魅力について分析していきます。美術解剖学というのは、絵を描いたりモノを作ったりする際に参照される、人体の構造や仕組みを探究する学問です。例えば、モデルをデッサンするにしても、外形をなぞり陰影をつけるだけではなく、皮膚の下がどうなっているかを知ること、モデルをより深く見ることができ、描いた絵にも説得力が増します。漫画に登場する巨人たちの体を見てみると、骨格や筋肉の仕組みで細かく表現されており、なるほど、あの漫画の迫力の根底には、この「美術解剖学」があったのかと、作者の思いを感じ取ることができたような



VOL.33

「進撃の巨人」と解剖学
その筋肉はいかに描かれたか

ホームギャラリーから
おすすめの1冊をご紹介します

2017
明後日朝顔プロジェクト

2017.6.1

「明後日朝顔プロジェクト」とは、アーティストの日比野克彦さんによる、朝顔を通じて人や地域同士を結んでいくという理念に基づいたアートプロジェクトです。当館は毎年このプロジェクトに参加しており、今年も正面玄関前の花壇と、アートのスカイギャラリー窓側のテラスで朝顔を育て始めました。雨にも風にも負けず、天

気がして、深い感動を覚えます。『進撃の巨人』のファンにとっては作品を深く知ることができ、『進撃の巨人』を知らない人でも、漫画だけにとどまらず、美術作品を様々な角度から見る楽しさや、その感じ方、魅力は無限にあるのだと気づかせてくれる1冊だと思います。(M・N)

に向かってぐんぐんと伸び続けていく...そんな朝顔たちの強たくましい姿は、私たちに元氣と笑顔をもたらしてくれそうです。美術館に立ち寄られた際には、一度覗いてみてくださいね！また、昨年採れた種を美術館受付で配布しています。この種も、全国で育てられ受け継がれてきた、参加者それぞれの土地の記憶や思い出が詰まった種なのです...！(M・N)



三沢さんの作品の中には
ブロンズ製の動物も。
簡単には見分けが付きませんが、
目をこらして探してみてください!



編集後記

この夏の館内は、等身大の動物たちもいっぱい、1/10 サイズの熊本城模型もあり、たいへんぎやかです。これらの巨大な作品や模型、どのようにしてここまで運ばれてきて展示されたのか、考えたことはありますか? 大きすぎるものは通路を通りませんし、重すぎるものは人力では運べません。そのようなときは、分解してパーツごとに運んだり、機械の力を借りたりして何とかします。私たち学芸員は大きな作品の搬入・展示にしょっちゅう頭を悩ませているので、他館の展示で巨大な立体作品を見かけたときも、「これはどうやって搬入したんだろう」と、つい気になってしまいます。

編集長 佐々木玄太郎

今年も《明後日朝顔プロジェクト》の季節がやってきました! アートスカイギャラリーの窓の向こうでは、明後日朝顔がすくすくと育っています。水やり当番の日には観察日記がまわされ、朝顔の様子から各自の水やり担当時の出来事まで、写真やイラストも交えて書き残されています。昨年10周年記念展示では、観察日記も公開されました。月2回のペースで回ってくる観察日記は、朝顔の成長ぶりに驚かされるのはもちろんのこと、スタッフのイラストや出来事を振り返るのも密かな楽しみのひとつになっています!

担当 大田黒翔代

〔執筆一覧〕* 原稿の文末にイニシャル表記
富澤治子(H・T) [熊本市現代美術館主任学芸員]
坂本顕子(A・S) [熊本市現代美術館主任学芸員]
佐々木玄太郎(G・S) [熊本市現代美術館学芸員]
池澤茉莉(M・I) [熊本市現代美術館学芸員]
大田黒翔代(K・O) [熊本市現代美術館学芸アシスタント]
村上綾(A・M) [熊本市現代美術館学芸アシスタント]
三浦和紗(K・M) [熊本市現代美術館学芸アシスタント]
手嶋彩香(A・T) [熊本市現代美術館学芸アシスタント]
中村美友(M・N) [熊本市現代美術館総務アシスタント]

ART KISS LETTER アート・キッスレター
vol.82 夏号(2017年8月) 【無料】

発行人: 桜井武
編集: 佐々木玄太郎 大田黒翔代
デザイン: 石井克昌 (MOTOSHIKI)
印刷: シモダ印刷
発行: 熊本市現代美術館
http://www.camk.or.jp
〒860-0845 熊本市中央区上通町2-3
電話 096-278-7500 FAX 096-359-7892

【次号は秋号(11月発行予定)】

ART DE GYAN

アート・どぎやん

熊本弁で「アートはどんなの?」
という意味です

小川万莉子 絵画展

Gallery moe

熊本市中央区新市街13-24

096-355-9238

2017.4.22-4.30

熊本出身で東京を拠点に活動する小川万莉子による個展。コンクリート打ちっ放しの壁に、白を基調とした抽象画が並び、涼やかさを印象つけた。縦横に伸びる絵の具は、薄く広い幅になっていたり、ところどころ下の層の色が透けたり、盛り上がった部分があったり、色数は少ないが、筆致や素材の質感など、こちらから積極的に読み取っていく楽しさがあった。



キャンバスにアクリル、油絵、ミツロウを組み合わせたことで、透明感や質感の幅をもたせている。それによって湿度や温度も感じられ、おぼろげに見える形からも、路地のような、どこかの場所を想起させた。背丈ほどの大きな作品を前にすると、そのまま呼び込まれてしまいそうだった。作家によれば、訪れて心地いと感じたり、馴

いつづけてくれるように やってみる いろいろなかたち

ギャラリー百花堂

熊本県山鹿市山鹿1371

080-6426-4519

2017.5.3-5.28

熊本在住のアド(渡辺真希子)による個展。モチーフはすべて動物で、等身大の木製パネルや油絵、ポストカード大のドロ잉、手のひら大から頭にかぶれるほど大きな立体作品など、形式は様々に配置されていた。印象的だったのは、作品を前にすると本当に動物と対峙するような緊張感をもったことだ。座敷で、モチーフとなる多くの

染みの場所などをイメージしているという。「いい音楽は私たちを別の場所に連れて行ってくれる」というほめ言葉があるように、小川の作品もまた、見る者をどこかの場所に誘い出すような魅力をもっていた。(A・M)



動物と同時に目が合うことに気が付いた。そしてそのどれも、媚びた表情をしていないのだ。見詰め合う状態になり、不遜な態度では向かい合えないような、背筋の伸びる思いがした。作家は視線について「お天道様が見てる」ような状況を作りたかったと語っていた。その帰り道、私は熊本地震で大きな被害を受けた動物たちのことを

熊谷有展

一家族の肖像+α展

崇城大学ギャラリー

熊本市中央区花畑町10-25

096-323-1158

2017.5.1-5.28

崇城大学教授の熊谷有展さんの個展。ここ10年間に描いた作品30点が並ぶ。当館で個展を開催した時にも出品された代表作も並び懐かしく感じたが、やはり最新の大作《Rise again the sun also rises》が圧倒的に目を引いた。作家によると、大津から阿蘇に向かう途中の風景をソースに画面を構成したとのこと、その道を通ったことのある者には親しみ深い景色である。震災直後、長陽村(南阿蘇村)に住む親戚と連絡が通じ

思った。ときに人は傲慢な態度をとる。作家は、動物がいつづけてくれるように、まず私たちに自らの横柄さを気づかせようとしているのかもしれない。(A・M)



ず、心配で家族と車で現地向かっていく時に見た朝日がきっかけになったそうである。朝日と、熊本と、見る者との関係性が描かれた作品。すさまじい集中力と、再始動への離れの時間がぎゅっと詰まった、震災を経験したからこそ生み出された美しい作品である。(H・T)

ギャラリーⅢ(GⅢ)は、熊本九州のアートリストを紹介し、応援していくスペースです

GⅢ

GⅢ vol.116「熊本市被災文化財のいま」

2017.5.4-7.2

GⅢ vol.116

「熊本市被災文化財のいま」開催

ギャラリーⅢの第116回目の企画として「熊本市被災文化財のいま」展を開催しました。2016年4月の熊本地震によって、熊本市の文化



財の多くが被害を受けました。本展

では、震災直後から続く文化財保護の活動と、その現状・課題を、写真や映像、VR、実際の救出資料などを通してご紹介しました。また文化財の状況と合わせて、それらを守るために今に至るまで奔走し続けている人々の動きにも光を当てました。

今回の小展示を通して、地域の歴史・文化を背負った遺産を後世に伝えていくための活動に、少しでも多くの方が関心に向けていただけたのであれば幸いです。(G・S)

講演会

「市内文化財の現状と復旧の見通し」

熊本市

文化振興

課の担当

者を講師

に招き、

講演会「市

内文化財

の現状と

復旧の見

通し」を

開催しま

した。「そ

もそも、文

化財」と

は？」とい

うところ

から始め

り、地震

で全壊し

たジェー

ンズ邸を

例にし

て、被災

直後から

現在まで

の対応の

様子を説

明してい

たきました

。その

後、知名度

は低けれ

ど実は歴

史的にたい

へん貴重な

「知られ

ざる文化

財」につ

いて、被災

前後の比較

写真を見

ながらご

紹介いた

だきまし

した。中

には、震

災前は10

段だった

石塔が、

震災後の

修復活動

後には12

段とな

った、と

いうのも

いろいろ

エピソード

も。今回

の被災で

調査が進

められ、

本来この

石塔の部

品だった

ものが、

他の石塔

に混じっ

ていたこ

とが明ら

かになり

、本来の

形に戻さ

れたのだ

そうです

。このよ

うに被災

を機に、

新たな事

実が明ら

かになる

例もある

ようです

2017.5.13



講演会

「文化財レスキューの現場」

講演会「文化財レスキューの現場」

を開催しました。熊本市立熊本博物館学芸員の木山貴満さんを講師に招き、多くの写真を見ながらお話しただきました。

初めに、熊本市立熊本博物館、塚原歴史民俗資料館の概要と、その被災後の状況などをご紹介。曲がってしまった収蔵庫棚の固定金具からは、地震の力の大きさが改めて感じられました。また、熊本城天守閣内の資料救出作業についてもご紹介いただきましたが、天守閣に入れたのは地震から2か月後、一度に入れる人数と時間も制限がある中で、雨漏りで傷んだ資料を優先して手運びで搬出したとのこと。

文化財レスキューの活動については、地震直後の一般の方への資料保全の呼びかけから、寺社や民家での作業の様子、救出後の資料への処置や保管作業までをご紹介いただきました。雨漏りでカビだらけになった建物や、倒壊の恐れのある建物での作業写真からは、レスキュー現

最後の質疑応答の時間には、「文化財の復元というのは、どの時点の状態で戻すことなのか」といった問いも発せられ、文化財の保護復旧における考え方について意見が交わされました。(A・T) 【参加人数30人】

2017.5.27



場の過酷さがうかがえました。

なお文化財レスキューを行う中で、地元の資料所有者と交流する機会が生まれ、これまで知られていなかった資料や城下町の歴史に触れる機会にもなったそうです。

講演の最後には、「文化財は(実は)身の周りにあふれているもの」というお話があり、貴重な資料を後世に残していくために、「身近なものでも文化財となりうる」という意識をもつことの重要性が語られました。講演後の質疑応答では、文化財というものの考え方から、自宅の資料の具体的な管理方法まで、様々な質問が発せられ、木山さんは自身の考えを添えながらそのひとつひとつに丁寧に回答していました。(A・T) 【参加人数30人】